掲載日:2023年07月15日,面名:EA0XX0,記事ID:K2023071500000014300
(C)河北新報社

あすへ
東日本大震災

教訓 同世代へ伝える

釜石高生、盛岡で防災授業

東日本大震災の経験を語り継いで災害への意識を高めてもらおうと、釜石市の釜石高の生徒会が14日、盛岡市の杜陵高で防災授業を開いた。両校の生徒計約40人が参加。防災に関する知識を学びながら、交流を深めた。

釜石高からは11人が訪れた。震災当時5歳だった生徒は、幼稚園から母親の車で避難した経験や配給物資で暮らした避難所生活を振り返った。犠牲者を出さなかった事例を基にした津波避難の原則を解説し「想定にとらわれず、率先避難者になることが大切」と訴えた。

災害時に役立った防災グッズの紹介のほか、避難所運営などで難しい選択を迫られる状況を疑似体験する「クロスロードゲーム」も行われた。

杜陵高3年の平野天音さん(18)は「同い年の震災の経験を聞き、当時を思い出すきっかけになった。家の防災バッグの場所を確認して備えておきたい」と話した。

釜石高生が東日本大震災の被災体験を語った防災授業

授業は2020年に始まった釜石高の「メッセージプロジェクト」の一環。これまで釜石、花巻両市などで実施した。